



2024年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2024年2月7日

上場会社名 アイサンテクノロジー株式会社
コード番号 4667 URL <https://www.aisantec.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 加藤 淳
問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理本部長 (氏名) 曾我 泰典
四半期報告書提出予定日 2024年2月7日
配当支払開始予定日
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
TEL 052-950-7500

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	3,134	14.1	78	32.3	84	43.9	55	117.7
2023年3月期第3四半期	2,746	4.2	59	42.8	59	42.3	25	68.3

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 37百万円 (45.2%) 2023年3月期第3四半期 25百万円 (67.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	10.10	
2023年3月期第3四半期	4.65	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第3四半期	7,484	6,011	79.0
2023年3月期	8,002	6,044	74.1

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 5,914百万円 2023年3月期 5,926百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期		0.00		15.00	15.00
2024年3月期		0.00			
2024年3月期(予想)				20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,700	27.7	500	50.9	490	48.1	332	37.9	59.83

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

特定子会社の異動に該当していませんが、当四半期連結累計期間において、当社の100%子会社であったエーティーラボ株式会社を吸収合併したことにより、連結の範囲から除外しております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2024年3月期3Q	5,548,979 株	2023年3月期	5,548,979 株
------------	-------------	----------	-------------

期末自己株式数

2024年3月期3Q	103,400 株	2023年3月期	108,234 株
------------	-----------	----------	-----------

期中平均株式数(四半期累計)

2024年3月期3Q	5,443,399 株	2023年3月期3Q	5,437,985 株
------------	-------------	------------	-------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

1) 経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におきまして、日経平均も堅調に推移するとともに、レジャーやインバウンド需要の伸長など国内経済は総じて安定した推移を見せております。一方、海外では、ウクライナ情勢の長期化、中東情勢の不安化、アメリカの金利政策、新興国経済の発展スピードの鈍化など国内経済活動にも影響を与えております。具体的には、燃料価格の高騰や原材料価格の上昇に伴う物価高、商品やサービスへの価格転嫁などによる消費者心理の冷え込みにも繋がります。また、物流や運送業界ならびに建設業界における2024年問題など、多くの社会的課題を抱える厳しい環境にあります。加えて、2024年1月に発生した能登半島地震のように自然災害のリスクにも対応が求められる環境にあります。

そのような中、急速に広まりを見せる生成型AIは期待と不安が入り混じる状況ではありますが、労働人口が減少する中、有益に活用することが求められています。加えて、政府の推進する「Society 5.0」で実現する社会は、現在普及が進んでいる「5G」の性能をさらに進化させた次世代の移動通信システム「6G」により、すべての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、社会的課題の解決が期待されています。そのために、法整備をはじめとした規制改革、インフラ整備、そしてそれらの先行的な実現の場として考えられているスマートシティへの取組などが行われています。

こうした状況の中で当社グループは、2022年3月期から「Investment & Innovation」を目標に掲げた3年間の中期経営計画をスタートさせ、当連結会計年度においてその最終年度を迎えております。その1年目及び2年目には人材の採用とその育成といった人的資本への取り組みの強化、新たな製品・サービスをリリースするための研究開発、自動運転実用化に向けた研究と体制づくりなど、経営計画を達成するための重要な成長フェーズと捉え、積極的な投資を行ってまいりました。また、「未来の社会インフラを創造する」をキーワードに、国土強靱化、不動産登記行政といった分野への取り組みとともに、自動運転の分野において地域公共交通の維持、スマートシティ、自動運転社会の実現といった多方面の社会的課題の解決のため積極的な取り組みを行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、国が促進する各種補助金の活用をお客様に促し、自社製品や三次元計測機器を中心とする各計測機器への購買動機を高める活動を継続するとともに、展示会への出展を強化し、商談機会の獲得に努めてまいりました。MMS (Mobile Mapping System) 機器販売、高精度三次元地図の作成請負及び2025年の自動運転サービス実用化に向けた自動運転実証実験請負、自動運転車両の構築請負、公共及び民間からの測量業務委託については、当事業年度第2四半期決算発表資料でもご説明した通り受注から納品までに時間を要するとともに、売上計上が年度末に集中する傾向にあるため、当第3四半期連結累計期間では大半の案件が収益計上には至っておりませんが、多方面より受注獲得は進み、納品に向けた対応を進めております。

なお、当第3四半期連結累計期間末において、当連結会計年度に収益計上する予定の請負契約に係る受注残高は以下の通りとなります。

(単位：千円)

	公共セグメント	モビリティセグメント	合計
計測機器販売及び関連サービス	—	8,083	8,083
各種請負業務及び関連サービス	113,662	1,029,740	1,143,402
合計	113,662	1,037,824	1,151,485

セグメント別においては、次の通りであります。

a. 事業セグメント別の業績

(単位：千円)

		2023年3月期 第3四半期	2024年3月期 第3四半期	対前期増減額	対前期増減率
公共 セグメント	売上高	2,128,534	2,244,812	116,278	5.5%
	セグメント利益	264,733	291,309	26,575	10.0%
	営業利益率	12.4%	13.0%		
モビリティ セグメント	売上高	609,866	881,318	271,452	44.5%
	セグメント損失 (△)	△49,147	△53,546	△4,399	—
	営業利益率	△8.1%	△6.1%		
その他	売上高	8,373	8,373	—	—
	セグメント利益	4,023	3,852	△171	△4.3%
	営業利益率	48.0%	46.0%		

b. 報告セグメント別の概要

①公共セグメント

当社グループの主力製品である「WingneoINFINITY」は、対象となるサポートサービスに加入しているお客様に対し、各契約に応じた対象バージョンを当第3四半期連結累計期間にお届けしたことにより、当該役務の完了に応じた収益を計上しました。営業活動としては、従前の訪問型営業だけではなく、測量・不動産登記・衛星測位・点群といった当社製品及びサービス、ならびに当社が保有する技術に関するオンラインセミナーを積極的に開催し、潜在顧客の掘り起こしを行い、その結果、前年同期と比較し、売上高は増加しました。

測量・土木分野向け点群処理ツール「WingEarth」は、前連結会計年度における受注残案件の売上計上、補助金制度を活用した販売活動により、一定の効果がありました。2023年9月には新機能を搭載した「WingEarth Version2.4.0」とともに新オプションをリリースし、オンライン体験会等の販促活動を行いました。前年同期と比較し売上高は減少しました。当第4四半期以降につきまして、引き続き本製品の販売活動を推進してまいります。

これら自社ソフトウェア販売に関して、各種補助金を活用した販売施策の投入、昨年度にリリースした次世代TSコントローラー「LasPort」の販売促進に加え、2024年1月にリリースした新たな3次元ツール「GrandBase」など、様々な業務に特化した新たなサービス・製品のリリース及び開発の継続により、収益の改善を目指してまいります。

測量機器のリユース・リペア・レンタルの3Rサービスをウェブ展開する測量機器総合マーケット

「GEOMARKET」は、お客様との取引がオンラインで完結します。半導体不足は以前に比べ解消傾向にある一方で、原材料高騰は新型測量機器の価格にも影響が出ていることから、リユース販売やレンタル需要が高まっております。その中で、ウェブ広告を積極的に展開することで知名度も向上したことで、買取の問い合わせも増加し、前年同期と比較し、売上高が増加しました。また、2024年1月5日に公表の通り、有限会社秋測の子会社化を行い、測量機器のリペア業務におけるシナジーを図る取り組みを開始しております。

MMS計測機器及び関連商材の販売においては、公共分野・インフラ分野のお客様への新規導入提案活動、既存顧客へのリプレースの提案を行うとともに、測量・土木・地図市場において、これまでに販売してきたMMSの保守契約や、公共分野でのMMS計測受託業務を行っております。前連結会計年度を上回る新たなMMS販売の受注も獲得しておりますが、納品までに時間を要するため、これらの案件は当連結会計年度中の収益計上を予定しております。

測量請負事業は、ここ数年、官公庁における公共測量に係る入札競争が激しさを増しております。このような事業環境へ対策すべく、民間の建設コンサルタント企業を中心とした新規顧客の開拓に努めてまいりました。その結果、前年同期と比べて売上高・利益ともに増加しました。また、案件の受注も順調に推移しておりますが、測量成果の納品時に一括して収益を計上するため、これらの案件は当連結会計年度末を中心に収益計上を予定しております。

一方、前連結会計年度に引き続き、中期経営計画に沿った人財投資計画を進めた結果、販売費及び一般管理費は前年同期と比較して増加しました。

②モビリティセグメント

モビリティセグメントにおきましては、政府の掲げる「RoAD to the L4」に伴う2025年の自動運転サービス実用化に向けて、国を挙げての取り組みが加速しており、自治体や交通事業者等の課題意識も高く、自動車業界における各社の投資意欲もEVへの投資とともに継続し、新たな商談が発生している状況です。一方で、世界規模の半導体不足は以前に比べ解消傾向にあるものの、その影響は未だに継続しており、一部自動走行車両の構築業務案件において、納品時期に影響を及ぼす可能性もございます。

三次元計測請負業務及び高精度三次元地図データベース整備は、自動走行の実用化を目的とした整備業務を受注し、随時納品をしております。一方で、品質やコストへの要求が高まっており、生産性向上に向けた体制の見直し、ツールの開発、グループ間でのシナジーを生み出す検証は、前連結会計年度から継続して取り組んでおります。これらの結果、当第3四半期連結累計期間において、高精度三次元地図データベース整備は前年同期と比較し、売上高は減少しましたが、各方面より案件の引き合い及び受注は進んでおり、年度末時点において売上高は前年比を上回る見込です。

自動走行システムの販売および実用化に向けた実証実験は、前連結会計年度に引き続き、国内の多くの企業や地方自治体などで需要がある状況です。そのような中、自動走行の実用化に向けた実証実験は、特に実用化が期待される地域におけるものを中心に積極的に進めておりますが、2023年10月20日に公表の通り、グループ会社であるA-Drive株式会社とともに、全国15の地域に参画し、自動運転実証調査事業を行うこととなりました。これらを含め、自動走行の実用化に向けた実証実験の実施は第4四半期に集中しており、現在各地域において実施中、もしくは実施を直前に控えている状況です。そのため、当連結会計年度末までに売上計上を予定しております。

自動運転の実用化は、政府目標として2025年に50か所以上、2027年に100か所以上での社会実装を目指すとして

います。当社グループは、株式会社ティアフォー、損害保険ジャパン株式会社、KDDI株式会社等のパートナー企業と連携し、全国自治体との対話を進め、将来の実用化に向け積極的に推進してまいります。それまでの間は、当事業分野は投資フェーズと捉えており、将来の事業モデル確立に向けた先行投資として、前連結会計年度より引き続き、事業推進に必要な人財確保、システム構築や機材などの調達を積極的に行ってまいります。また、愛知県の補助金を活用した大型自動運転バスの実用化に向けた研究に加え、株式会社ティアフォーと連携し、自動運転小型EVバスである「ティアフォーMinibus」を導入するなど、従来の乗用車タイプ、カートタイプでの実証実験の知見を活かし、今後はニーズが高いバスタイプでの実証や販売に積極的に取り組んでまいります。

このように、補助金等も積極的に活用した一方で、人財投資を進めた結果、販売費及び一般管理費は前連結会計年度と比較し、増加しました。

その他の分野では、前連結会計年度から取り扱いを始めた自動運転支援用のカメラ販売は、他用途での利用を目的とした販売など、本商材の販売は引き続き好調に推移し、収益を計上いたしました。また、2023年2月に三菱商事株式会社との共同出資による「A-Drive株式会社」を設立し、パートナー企業の知見やノウハウを有効活用しながら、自動運転の様々なニーズに対応するサービスの展開を行い、2025年の自動運転実用化に向けた更なる事業の深化を目指してまいります。なお、「A-Drive株式会社」の収益に関しては、上記に記載の通り、当面は投資フェーズとして事業展開を進めております。

③その他

自社保有の不動産に係る賃貸収入については、前年同期と同水準の結果となりました。

(2) 財政状態の状況

(資産)

当第3四半期連結累計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて517百万円減少し、7,484百万円となりました。その主な要因は現金及び預金が468百万円減少したこと等によります。

(負債)

当第3四半期連結累計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて484百万円減少し、1,472百万円となりました。その主な要因は支払手形及び買掛金が417百万円減少したこと等によります。

(純資産)

当第3四半期連結累計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べて33百万円減少し、6,011百万円となりました。その主な要因は利益剰余金が26百万円減少したこと等によります。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において当社グループが定めている経営方針・経営戦略等につきましては、2023年5月10日に開示した「中期経営計画の修正に関するお知らせ」から重要な変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,337,451	3,868,912
受取手形、売掛金及び契約資産	1,415,589	1,100,040
商品及び製品	148,000	280,065
仕掛品	10,379	68,552
未収還付法人税等	-	22,480
その他	114,677	185,986
貸倒引当金	△515	△23
流動資産合計	6,025,583	5,526,014
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	380,732	380,732
減価償却累計額	△196,137	△204,003
建物及び構築物(純額)	184,595	176,728
土地	454,595	454,595
リース資産	299,649	424,313
減価償却累計額	△201,433	△232,893
リース資産(純額)	98,215	191,420
その他	320,834	277,273
減価償却累計額	△220,841	△237,202
その他(純額)	99,993	40,070
有形固定資産合計	837,399	862,815
無形固定資産	256,449	261,594
投資その他の資産		
投資有価証券	623,446	628,016
その他	259,384	206,235
投資その他の資産合計	882,831	834,252
固定資産合計	1,976,680	1,958,663
資産合計	8,002,263	7,484,677

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	746,903	329,240
短期借入金	-	97,500
リース債務	39,979	58,533
未払法人税等	67,290	978
前受金	427,599	292,539
賞与引当金	131,941	54,924
その他	154,926	141,296
流動負債合計	1,568,640	975,013
固定負債		
リース債務	59,204	147,841
退職給付に係る負債	271,197	289,181
その他	58,350	60,819
固定負債合計	388,752	497,842
負債合計	1,957,392	1,472,855
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,922,515	1,922,515
資本剰余金	2,310,127	2,312,639
利益剰余金	1,883,473	1,856,867
自己株式	△189,785	△181,309
株主資本合計	5,926,330	5,910,712
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	659	3,830
その他の包括利益累計額合計	659	3,830
非支配株主持分	117,881	97,278
純資産合計	6,044,871	6,011,822
負債純資産合計	8,002,263	7,484,677

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	2,746,773	3,134,504
売上原価	1,645,808	1,869,731
売上総利益	1,100,965	1,264,773
販売費及び一般管理費		
給料手当及び賞与	302,008	392,313
退職給付費用	17,935	20,226
その他	721,392	773,367
販売費及び一般管理費合計	1,041,336	1,185,907
営業利益	59,629	78,865
営業外収益		
受取利息	177	185
受取配当金	470	470
受取保険金	1,844	4,376
物品売却益	-	2,507
その他	1,249	1,365
営業外収益合計	3,741	8,905
営業外費用		
支払利息	3,146	2,711
その他	1,159	66
営業外費用合計	4,305	2,777
経常利益	59,064	84,993
特別利益		
投資有価証券売却益	-	280
特別利益合計	-	280
特別損失		
固定資産除売却損	148	-
特別損失合計	148	-
税金等調整前四半期純利益	58,916	85,273
法人税、住民税及び事業税	19,700	20,882
法人税等調整額	13,946	29,987
法人税等合計	33,646	50,870
四半期純利益	25,270	34,402
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	-	△20,602
親会社株主に帰属する四半期純利益	25,270	55,005

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	25,270	34,402
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	602	3,171
その他の包括利益合計	602	3,171
四半期包括利益	25,872	37,574
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	25,872	58,176
非支配株主に係る四半期包括利益	-	△20,602

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。